

Ⅱ 海老名環境マネジメントシステムの 概要と運用状況

1 海老名環境マネジメントシステムとは

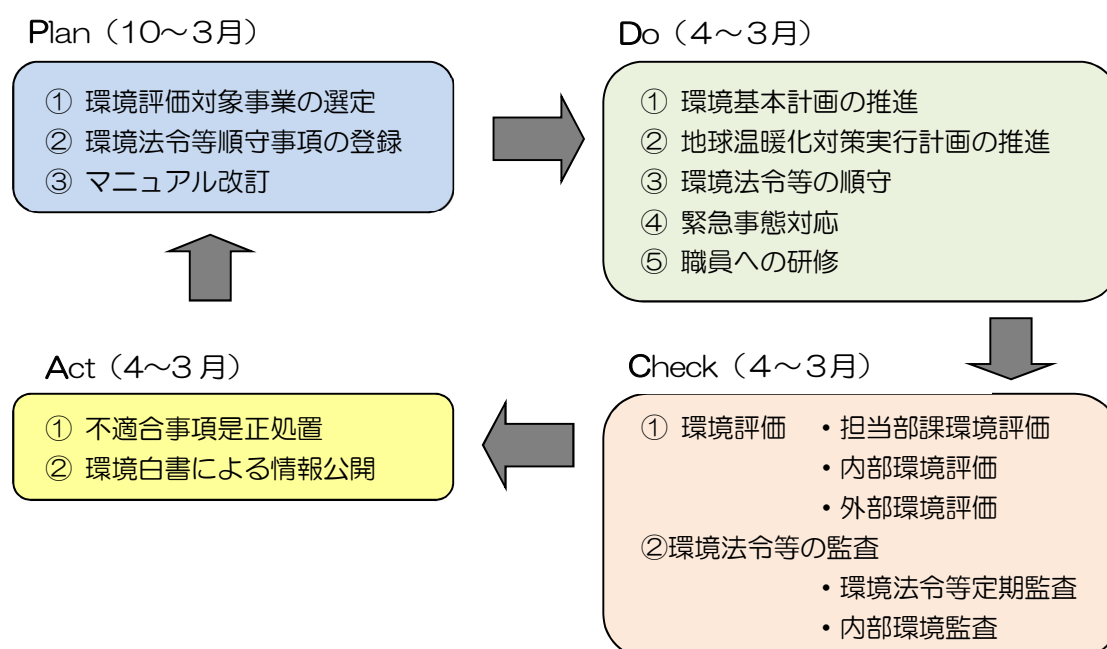
市では、平成13年度より環境に関する国際規格であるISO14001の認証を取得し、平成29年度からは、これまで培われたISO14001の取組みを継承して、市独自のマネジメントシステム「海老名環境マネジメントシステム（以下、EMSとします。）」を運用しています。

EMSは、「全ての事務事業・事業活動における環境配慮の日常化」と「環境法令の順守の徹底」に向けて、市の事務事業の進行と一体的に取り組むシステムであり、効率的かつ効果的な環境配慮を推進しています。

〈主な取組みの概要〉

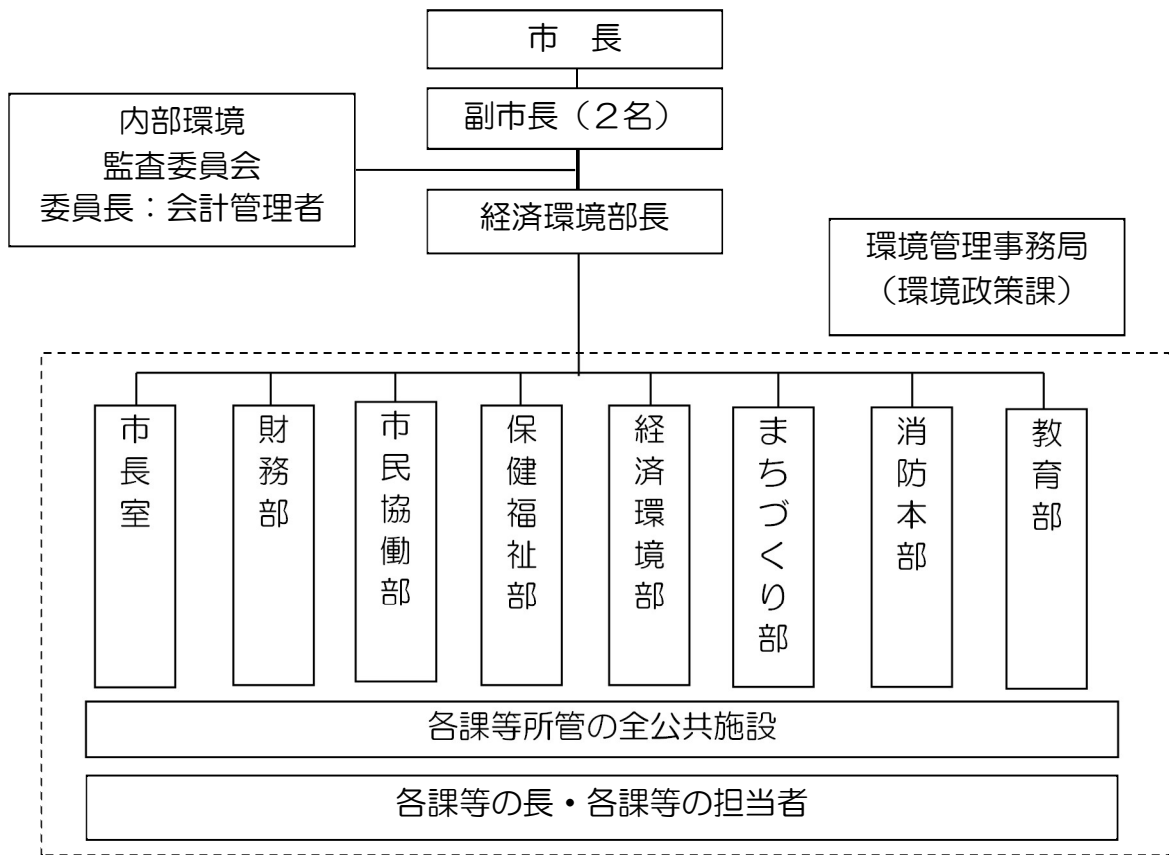
① 環境基本計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境評価対象事業の進行管理 ・環境評価 (担当部課評価、内部環境評価、外部環境評価)
② 地球温暖化対策実行計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー化の推進 ・ごみゼロ運動の推進 ・環境配慮活動実施状況の確認 ・グリーン購入の推進 ・公共工事・契約事業における環境配慮の推進
③ 環境法令等の順守	<ul style="list-style-type: none"> ・内部環境監査 ・環境法令等定期監査
④ 職員への研修	<ul style="list-style-type: none"> ・EMSに関する研修 ・環境法令に関する研修 ・内部環境監査に関する研修

〈EMSにおけるPDCAサイクル〉



EMSは、市の事務事業の進行と一体的な環境配慮を推進するため、原則全ての公共施設における事務事業および事業活動を対象としています。

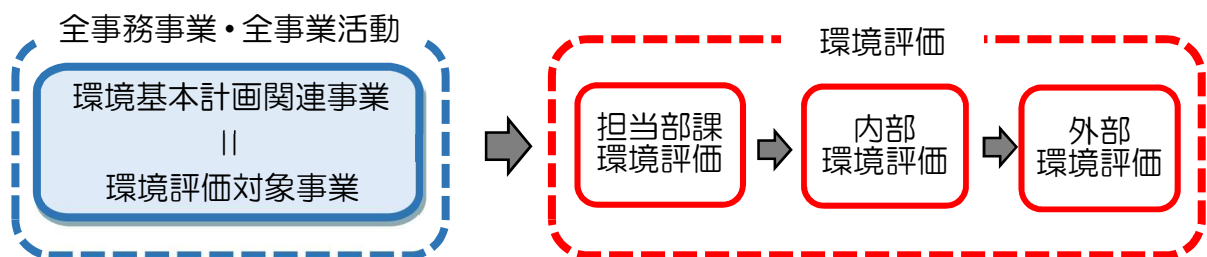
〈組織図〉



2 環境基本計画の推進

海老名市第三次環境基本計画に設定した目標指標及び個別指標の達成に向けて実施する事務事業を環境基本計画関連事業と定め、環境評価対象事業として進行管理を行っています。各事業の所管課では、環境評価対象事業について調書を作成し、その調書に基づいて環境基本計画の進行管理を実施しています。各事業の推進状況は、事業を実施した翌年度に環境評価を実施し、継続的な改善に努めていきます。

〈環境基本計画の推進の流れ〉



(1) 環境評価の概要

環境評価は、所管課による担当部課環境評価、内部環境評価委員による内部環境評価、環境審議会による外部環境評価の3段階で実施します。

〈段階別評価の概要〉

① 担当部課評価	
対象	環境評価対象事業
実施概要	前年度に実施した環境評価対象事業の取り組み状況を自己評価する。
評価者	事業の所管課等
② 内部環境評価	
対象	担当部課評価実施後の環境評価対象事業
実施概要	担当部課環境評価を受け、環境評価対象事業の取り組み状況を評価する。
評価者	内部環境評価委員（内部環境監査委員）
③ 外部環境評価	
対象	内部環境評価実施後の環境評価対象事業
実施概要	内部環境評価を受け、環境評価対象事業の取り組み状況を評価する。
評価者	外部環境評価委員（環境審議会EMS専門部会委員）

(2) 環境評価の実施（令和4年度実施事業）

令和4年度に実施された環境評価対象事業は9つの目標指標に係る施策の方針と目標指標の実現に向けた29の個別指標に係る事業です。担当部課評価及び内部環境評価については事業ごとに、外部環境評価は施策の方針ごとに、4段階の基準により評価しました。

〈評価の実施時期〉

① 担当部課評価	令和5年4月
② 内部環境評価	令和5年5月
③ 外部環境評価	令和5年7月

〈評価の結果〉

環境評価基準	担当部課評価	内部環境評価	外部環境評価
4：計画を上回る環境配慮を実施できた。	4事業	3事業	1施策
3：概ね計画通りの環境配慮を実施できた。	23事業	24事業	6施策
2：一部計画通りの環境配慮を実施できなかった。	2事業	2事業	2施策
1：ほとんど計画通りの環境配慮を実施できなかった。	0事業	0事業	0施策

(3) 外部環境評価の結果（令和4年度実施事業）

外部環境評価では、一部計画通りの環境配慮を実施できなかったと評価された体系や事業があるものの、全体としては、概ね計画通りの環境配慮が実施できているとの評価となりました。なお、外部環境評価委員より多くのご意見をいただきました。

体系ごとの評価を踏まえた総括的な意見の概要は次のとおりです。

〈外部評価の総括意見〉

① 取組み活動
温室効果ガス排出量や事業系ごみ排出量などすぐに成果が難しい活動は、諦めず地道で粘り強い活動が今後も必要です。 生ごみ処理機普及、コミュニティバス利用、えびなクリーン作戦、子供たちの「遊びのひろば」の活動は、市民に密着し市民参加の成果に繋がっています。
② 目標設定
個別目標に向かった各担当部課の活動は、真摯で真面目な取り組み姿勢が見られ、成果も上がっています。 ただ、上位目標（施策方針の目標指標）とのつながりがなく個別目標の成果が上位目標の成果に繋がっていない項目が見られ、今後目標設定での見直しなどで検討が望まれます。
③ 全体
実際の取組みについては、その結果がもたらされる市民への影響は非常に大きいものがあるため、今回の評価を通じて、引き続き各担当部課等の取組みについて、さらに改善等に努めていただきますようお願いいたします。

(4) 環境評価の結果概要（令和4年度実施事業）

目標指標及び個別指標に係る事業ごとの環境評価の結果です。

事業ごとの詳細は、資料編の「海老名環境マネジメントシステム環境評価結果（令和4年度実施事業）」をご参照ください。

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）

基本方針		施策の方針	
1 地球にやさしい社会の実現に向けて取り組みます		1 地球温暖化対策を推進します	
目標指標		令和4年度実績	
(現状値(年度))	(目標値(年度))		
市域からの温室効果ガス排出量		879千t-CO2 (R2年度実績)	
1,055千t-CO2 (平成28年度)	794千t-CO2 (令和11年度)		
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント
市の事務事業における温室効果ガス排出量	3	3	コロナ禍で厳しい制約がある中で、可能な範囲での取組みに努め、公共施設におけるエネルギー使用量の削減や環境配慮活動への呼びかけ、省エネ設備の導入が図られ、CO2排出量の削減に向けての意識向上が感じられる。
個人住宅用太陽光発電導入状況	3	3	コロナ禍で十分とは言えないまでも、可能な範囲で周知啓発を図った結果、目標には至らなかったものの、概ね計画通りの環境配慮を実施できたと判断した。
エネファーム導入状況	3	3	コロナ禍で十分とは言えないまでも、イベント等の周知が十分に行えなかった中で、可能な範囲で周知啓発を図れた。目標には至らなかったものの、概ね計画通りの環境配慮を実施できたと判断した。
低公害車の導入状況	4	4	イベント等の周知が行えたこともあり、可能な範囲で周知啓発を図った結果、目標値を大幅に上回ることができたと判断した。
外部評価			
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた。		
判断理由及び評価内容			
<p>国の目標に準拠し、基準年度に対し40%のCO2削減を目標に掲げています。コロナ化で、活動が制限された中、太陽光発電、エネファーム、低公害車に対する補助金を積極的に進め、各施策の実績が目標年度に対し61%~79%の高い達成率です。なかなか、施策=結果に結びつきにくい部分もありますが地道にPR活動も実施してきており結果として、おおむね計画通りの実績を残せたと判断し、評価「3」とします</p>			

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）				
基本方針		施策の方針		
1 地球にやさしい社会の実現に向けて取り組みます		2 循環型社会を形成します		
目標指標		令和4年度実績		
（現状値（年度））	（目標値（年度））			
一人1日あたりごみ排出量（家庭系の可燃・資源）		551g		
650g （平成28年度）	650g （令和9年度）			
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント	
リサイクル率	3	3	昨年度と比較すると割合は減少しているものの、レジ袋の有料化や企業等による脱プラの動きがさらに促進されており、プラスチックが家庭から排出される機会が減少傾向にあることが、リサイクル率減少の一因になっていると考える。	
事業系ごみ排出量	2	2	訪問指導などの対面指導対応の件数を増やすことができた。また、市内事業者へのごみ減量化支援で生ごみ処理機の貸出しを開始したが、コロナの感染拡大が落ち着き、経済活動が回復したことにより、事業系ごみ量が増加しているため、一部計画通りの環境配慮を実施できなかったと考える。	
市庁舎におけるごみ排出量	3	3	庁舎から排出される排出物の減量化、分別徹底により高い資源化率を維持し、環境配慮への取り組みを概ね実施することができた。しかしながら、ごみの排出量は増加傾向にあったため、実態把握を行い、目標達成に努める。	
生ごみ処理機の普及率（補助制度実績）	3	3	継続して行っていた啓発に加えて、新型コロナウイルス実施できていなかったコミセン祭りでの啓発を再開できたことや、情勢に合わせて生ごみ処理機の制度を改正することができたため、おおむね計画通りの環境配慮を実施できたと考える。	
外部評価				
2	一部計画通りの環境配慮を実施できなかった。			
判断理由及び評価内容				
<p>1. 「リサイクル率」の減少傾向は新たな資源物の分別処理検討や資源物の混入の啓発などに今後期待しています。（評価3）</p> <p>2. 「事業系ごみ排出量」の削減活動で事業者ごとのゴミ種類の異なる事を踏まえた対策指導の工夫など活動に対する改善姿勢が弱い。（評価2）</p> <p>3. 「市庁舎におけるごみ排出量」の活動では新採用の教育や分別の徹底など従来の活動にとどまり新たな削減対策の発案やデータ分析からの改善活動などの意欲が感じられない。（評価2）</p> <p>4. 「生ごみ処理機設置費補助制度の普及率」では今後の活動の課題も明確でなく、普及率向上にどのように取り組むか見えません。（評価3） 上記1～4の結果、総合的に評価2と判断します。</p>				

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）			
基本方針		施策の方針	
1 地球にやさしい社会の実現に向けて取り組みます		3 緑・水・生きものと共生します	
目標指標		令和4年度実績	
(現状値(年度))	(目標値(年度))		
生き物とのふれあいに対する意識（環境アンケート：地域の生きものとのふれあいについて良い、やや良いと回答した人の割合）		アンケート実施なし	
48.2% (平成30年度)	50.0% (令和11年度)		
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント
自然緑地保全区域面積・樹木数	2	2	指定解除の相談が増えており、今年度についても保全区域・保存樹木ともに指定解除をしたため一部計画通り実施できなかったと判断する。
緑化に関する情報の発信回数	3	3	「緑化ポスターコンクール」を実施することができ、海老名中央公園で表彰式を行うことで多くの人へ緑化について発信することができた。
生物多様性に関する情報の発信回数	4	3	えびな生き物大調査においては、多くの参加をいただき、エントランスホールへの展示や、調査報告書の学校への配布等、当初予定以上の普及啓発が実施できたため、計画を上回る環境配慮を実施できたと判断する。
外部評価			
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた。		
判断理由及び評価内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・自然緑地の全区域面積・樹木数の目標数値は樹木の老化、所有者の事情に影響され、市の努力で対応することは、難しいと思います。指定解除の相談があったときの対応が重要です、目標の見直しをお勧めします。 ・「えびな生き物大調査」は良い企画と思います。報告書もしっかりとまとめられ、良いです。特に温暖化の影響により、温暖な地域に住むツマグロチョウモンが2件、ナガサキアゲハが1件の発見があったことを具体的に記述したところは評価できます。 ・上記の結果総合的に3と判断します。 			

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）				
基本方針		施策の方針		
2 健やかに暮らせる安全・安心な環境を確保します		1 水環境を守ります		
目標指標		令和4年度実績		
(現状値(年度))	(目標値(年度))			
河川水質環境基準達成状況		問題なし		
問題なし (平成30年度)	問題なし (令和11年度)			
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント	
水洗化率	3	3	目標値は横ばいであるが、助成金の交付を通し、概ね環境への配慮は達成できたと判断する。	
公共下水道の普及率	4	4	下水道PRの広報掲載等を実施し、目標値を上回ることができたと判断する。	
水循環に関する情報の発信回数	3	3	計画通りに市民に対して情報発信ができた。	
外部評価				
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた。			
判断理由及び評価内容				
<p>施策の方針として1. 水環境を守りますとして、3つの施策が展開されています。各項目とも概ね計画達成であり評価「3」としたい。また、河川の臭気や水が濁っていないかを確認し、異常時にも対応できるよう日々心掛けて業務に専念していることや、現場確認した状況はリストで管理し、チェックできるようにしているなど、地道な工夫も見られた点はプラス評価したい。</p>				

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）

基本方針		施策の方針	
2 健やかに暮らせる安全・安心な環境を確保します		2 生活環境を守ります	
目標指標		令和4年度実績	
(現状値(年度))	(目標値(年度))		
公害・環境に関する相談件数		48件	
64件 (平成30年度)	50件 (令和11年度)		
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント
大気環境基準達成状況	3	3	市内21箇所で大気汚染物質簡易測定調査を行い、また、大気汚染（屋外焼却行為）等に対する苦情相談に関しても迅速な対応及び状況に応じた指導を行ったため、概ね計画どおりの環境配慮が実施できたと評価する。
コミュニティバス利用者数	3	3	本年度においては、新型コロナウイルス感染症対策の緩和等もあり、利用者が増加しました。事業計画に基づき例年通りの運行を行ったことから、一定の環境配慮ができたと考えられる。
騒音に関する相談件数	3	3	相談ごとに迅速な対応を行い、問題解決に向けて適切に取り組んだ。
外部評価			
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた。		
判断理由及び評価内容			
<p>1. 「大気環境基準達成状況」では今後も屋外焼却行為の苦情対応に改善の必要あるもののほぼ計画通りに出来たと思われれます。（評価3）</p> <p>2. 「コミュニティバス利用者数」では、利用者増も見られ今後の利用促進の課題はあるものの計画通りに達成できたと思われれます。（評価3）</p> <p>3. 「騒音に関する相談件数」では騒音苦情件数も減少傾向で推移しており今後苦情分析と対策検討が求められるものの計画通り達成できたと思われれます。（評価3）</p> <p>上記1～3の結果、総合的に評価3と判断します。</p>			

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）			
基本方針		施策の方針	
3 “えびならしさ”を守り、育み、将来に引き継ぎます		1 都市環境を整備します	
目標指標		令和4年度実績	
(現状値(年度))	(目標値(年度))		
これから海老名市に住みたいか(市政アンケート:ずっと住みたい、できれば住み続けたいと回答した人の割合)		アンケート実施なし	
90.3%(令和元年度)	90.3%(令和11年度)		
個別指標	担当部課評価	内部評価	目標指標進捗に関する所管課コメント
道路整備への満足度(市政アンケート:幹線・生活道路の整備に満足・やや満足と回答した人の割合)	3	3	当初予定していた道路整備工事が概ね予定どおりに工事を進められたことや、工事受注業者に環境配慮型建設機械を使用したことから、概ね計画どおりの環境配慮を実施できたと判断する。
美化推進員のポイ捨て、路上喫煙巡回日数	3	3	巡回日数は大きく変わりはないものの、市民通報に対する個別対応を継続し、柔軟な対応を継続できたため、概ね計画通りの環境配慮を実施できたと判断する。
えびなクリーン作戦参加者累計数	3	3	新型コロナウイルスの感染対策を講じ、事業を実施することができたため概ね計画通りの環境配慮を実施できたと判断する。
外部評価			
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた。		
判断理由及び評価内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・工事受注者に環境配慮型建設機械を使用したことは評価できます。 ・予定通りの日程で、巡回を行ったこと。通報を受けて、張り込みなど指導方法を工夫して、156件の指導を行ったことは、評価できます。 ・3年ぶりに実施した「クリーン大作戦」を実施した結果が、「令和4年度事務事業 実施結果」欄の記述内容だけでは良かった点や、課題が見えません。これらが、分かる記述をして下さい。令和4年度の達成数値にも誤りがあります。 ・上記の結果総合的に3と判断します。 			

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）				
基本方針		施策の方針		
3 “えびならしさ”を守り、育み、将来に引き継ぎます		2 農業地を守ります		
目標指標		令和4年度実績		
(現状値(年度))	(目標値(年度))			
農地面積		492ha		
526ha (平成30年度)	526ha (令和11年度)			
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント	
農作業受委託面積	4	4	昨年度より受託面積が増加しており目標値以上に取り組んでいると判断する。しかしながら、営農組合作業従事者の高齢化により、目標数値を毎年度上回ることは厳しい状況である。	
市民農園利用者数	3	3	紙媒体を削減することを意識し、ホームページの内容・更新頻度を充実させるなど、環境に配慮した手法で利用率の向上を図った。	
農業体験イベント参加者数	3	3	コロナ禍、一部イベントが中止になったが、その他のイベントについては感染症予防対策を徹底し、イベントを実施することができた。	
外部評価				
4	計画を上回る環境配慮を実施できた。			
判断理由及び評価内容				
「2 農業地を守ります」の施策方針のもと、3つの個別指標が展開されています。各指標とも、概ね達成しています。また、農業体験イベント参加者数など、R3年度は、芋ほり、R4年度はトマトの収穫など年度ごとに取組を変えてきており取組に工夫がみられる点を評価して、「4」としたい。				

【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）				
基本方針		施策の方針		
3 “えびならしさ”を守り、育み、将来に引き継ぎます		3 地域資源を守ります		
目標指標		令和4年度実績		
(現状値(年度))	(目標値(年度))			
自然景観への満足度（環境アンケート：相模川や農地などの自然景観が良い、やや良いと回答した人の割合）		アンケートの実施なし		
74.9% （平成30年度）	75.0% （令和11年度）			
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント	
郷土資料館・歴史資料収蔵館来館者数	3	3	温故館・歴史資料収蔵館の来館者数はコロナ禍であったにもかかわらず増加させることができた。引き続き多くの方に来館していただけるように取り組む。	
歴史関連イベント・講座参加者数	3	3	令和2年度に比べてイベントの参加者が増加することができたため、継続して多くの方に参加していただけるように取り組む。	
外部評価				
3	概ね計画通りの環境配慮を実施できた。			
判断理由及び評価内容				
<p>1. 郷土資料館・歴史資料収蔵館来館者数」では、来館者数あるいは市民に市の歴史に関する理解の促進の為に調査は必要であるものの着実に来館者増もあり、計画通りと思われる。（評価3）</p> <p>2. 「歴史関連イベント・講座参加者数」では、参加者数の増減があるものの「あそびのひろば」や「VR体験会」などイベントの実施も計画通りできていると思われます。（評価3） 上記1～2の結果、総合的に評価3と判断します。</p>				

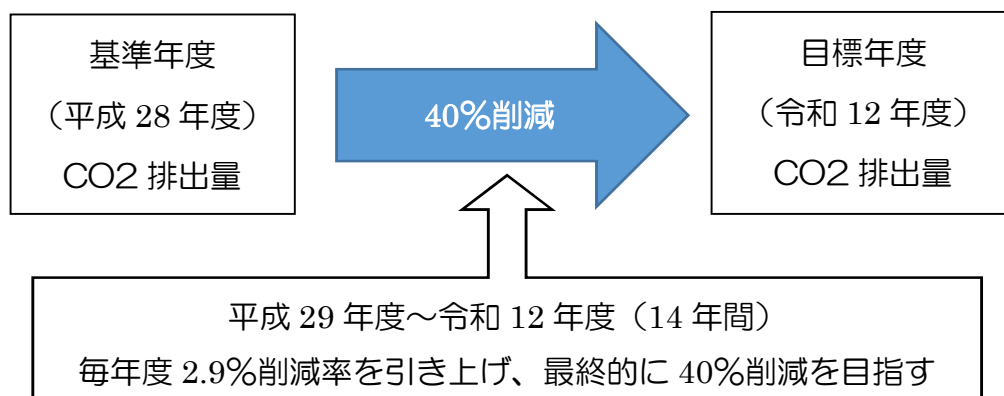
【令和5年度評価】外部評価シート（令和4年度分）				
基本方針		施策の方針		
4 みんなでえびなの環境を考え、行動します		1 環境を考え、行動します		
目標指標		令和4年度実績		
(現状値(年度))	(目標値(年度))			
環境への関心度(環境アンケート:以前と比べて関心度合いが高くなったと回答した人の割合)		アンケートの実施なし		
43.5%(平成30年度)	48.0%(令和11年度)			
個別指標	担当 部課 評価	内部 評価	目標指標進捗に関する所管課コメント	
環境関連情報発信回数	3	3	新たな情報発信を行い環境に関する発信回数が増えたことにより、市民の環境問題に対する理解の促進が図れたため概ね計画通りの環境配慮を実施できたと判断する。	
啓発・出前講座参加者数	3	3	出前講座の申込がなかった。令和3年度に新たな啓発方法として開始した、動画等を活用した啓発活動も継続したため、概ね計画通りの環境配慮を実施できたと判断する。	
海老名市きれいなまちづくり事業への登録団体数	3	3	登録団体の減少がみられるものの、コロナ禍による活動中止が減少し、各団体の活動が活発になったと考えられるため、概ね計画通りの環境配慮を実施できたと判断する。	
海老名市地域緑化事業への登録団体数	3	3	前年度から登録団体が1団体増えたことで、市民に対する緑化への関心を更に広げることができた。	
外部評価				
2	一部計画通りの環境配慮を実施できなかった。			
判断理由及び評価内容				
<p>①水質・大気等公害に関するデータは、市民も関心をもっており大切なデータです。広報えびな(令和4年6月1日号の、水質・大気の数値と、「えびな環境白書2022」のデータに齟齬が見られません。一貫性のある情報の発信が求められます。</p> <p>②広報えびなでの省エネルギー月間についての記事は、小さくて効果は限定的と思います。市のFacebook「えびなデイズ」等SNSを使って、広報されてはいかがでしょうか。</p> <p>③「生きもの大調査」や「えびなSDGs環境マイレージ」に関する情報発信は良いと思います。</p> <p>①の重要性を鑑みて2と判断します。</p>				

3 地球温暖化対策実行計画の推進

全ての事務事業・事業活動において、CO2 排出量の削減に向けた取り組みを実施しています。

(1) 省エネルギー化の推進

海老名市地球温暖化対策実行計画に基づき、基準年度（平成 28 年度）比 40%の二酸化炭素排出量(CO2)の削減を目指し、公共施設等における省エネルギー化を図ります。



〈市の事務事業からの CO2 排出状況〉

(単位 kg-CO2)

		平成28年度 (基準年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和12年度 (目標年度)
削減割合	目標	—	−11.6 %	−14.5 %	−17.4 %	−40.0 %
	実績	—	−15.4 %	−12.6 %	−11.3 %	—
排出量	目標	—	9,791,905	9,470,678	9,419,450	6,646,089
	実績	11,076,816	9,370,554	9,679,925	9,825,152	—

※1 目標値等は、海老名市地球温暖化対策実行計画（令和 2 年 3 月）に基づきます。

※2 令和元年度までは、改定前の同計画に基づき、平成 25 年度を基準年度として設定された目標に基づいて取り組みを進めていました。

〈公共施設のエネルギー使用量〉

種類	令和3年度	令和4年度
電気	16,283,143 kWh	16,038,800 kWh
ガソリン	68,148 ℓ	71,950 ℓ
軽油	69,068 ℓ	68,427 ℓ
灯油	157,260 ℓ	147,389 ℓ
プロパンガス	15,376 m ³	15,022 m ³
都市ガス	931,528 m ³	887,149 m ³

〈主な公共施設の電気使用量〉

施設名	令和3年度	令和4年度	増減率
本庁舎	1,772,369 kWh	1,631,488 kWh	-7.95%
文化会館	867,975 kWh	932,668 kWh	7.45%
運動公園	1,503,703 kWh	1,685,648 kWh	12.10%
北部公園	876,715 kWh	892,240 kWh	1.77%
小中学校（19校）	3,211,480 kWh	3,124,258 kWh	-2.72%

〈まとめと今後の対応方針〉

新型コロナウイルス感染症対策として休館していた施設や中止された催しが、令和3年度～令和4年度にかけ規制緩和されたことや、一部の公共施設がワクチン接種会場として例年とは異なる利用があったことで、エネルギー使用量の増加が見られた。その中でも施設照明のLED化や電力需要のひっ迫等に伴う全庁的な節電対応により使用量が減少した施設もあり、全体のエネルギー使用量としては減少した。しかし、CO₂の排出量に換算すると、令和3年度と比べ増加なとり、目標未達という結果になった。主な原因は電気のCO₂の排出係数(単位:t-CO₂/kWh)の変化による増加で、今後は省エネルギー化に関しても社会情勢を鑑みながら、引き続き、節電やペーパーレス化の徹底等によるソフト対策、市施設への高効率設備の導入等によるハード対策の推進はもちろんのこと、エネルギーの調達先も意識したCO₂の削減に向けた取組みが望まれます。

(2) ごみゼロ運動の推進

公共施設等のごみ排出量の削減を図ります。

ゼロ・エミッション
<p>ごみ処理の問題は、資源の枯渇、ごみの処分場不足、地球温暖化等を引き起こす重要な環境問題であるという認識のもと、原則としてリサイクル率97.5%以上を「ゼロ・エミッション」と定義し、平成15年から取り組んでいます。</p>

〈ゼロ・エミッション宣言をした公共施設のリサイクル率〉

施設名	宣言年	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
本庁舎	平成23年	97.2%	97.5%	97.6%	97.0%
文化会館 ^{※1}	平成23年	95.5%	97.5%	98.1%	97.5%
こどもセンター ^{※2}	平成27年	82.4%	92.8%	92.1%	90.8%
保育園(5園) ^{※3}	平成29年	95.3%	95.3%	96.5%	96.2%
消防庁舎	平成25年	95.4%	98.2%	99.3%	97.6%
食の創造館	平成28年	99.9%	42.2%	10.4%	99.9%
中央図書館	平成25年	86.6%	100.0%	100.0%	100.0%
有馬図書館	平成23年	90.7%	98.4%	100.0%	100.0%

※1 文化会館は、資源化できないごみの割合が高いため、93%以上を維持することとしています。

※2 旧保健相談センター

※3 保育園は、資源化できないごみの割合が高いため、95%以上をゼロ・エミッションと定義しています。

〈市の事業活動によるごみの排出量〉

種類	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般廃棄物	218.1 t	203.4 t	237.1 t	245.4 t
産業廃棄物	268.6 t	225.2 t	233.7 t	152.5 t

〈まとめと今後の対応方針〉

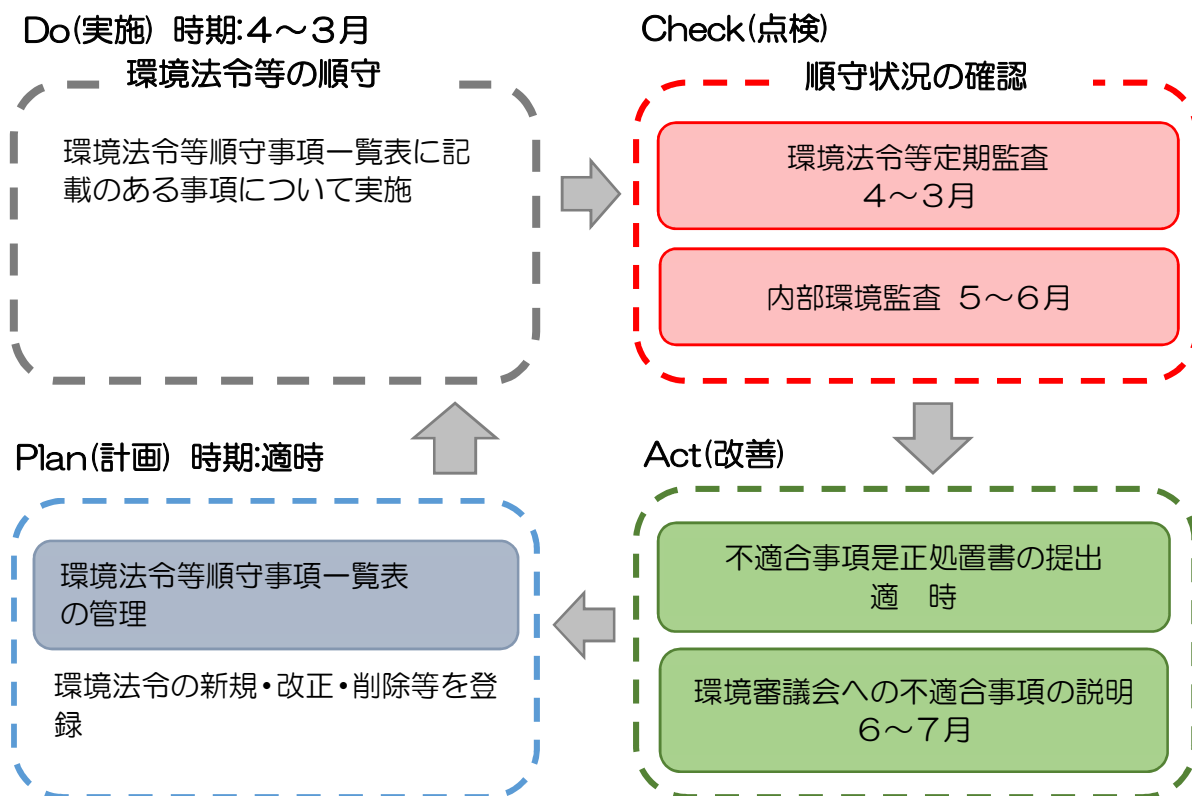
今年度は、8施設中、6施設が目標とするリサイクル率を達成できました。未達成となった施設のうち、本庁舎及びこどもセンターは昨年度と比較して、リサイクル率がほぼ横ばいとなっており、引続き目標達成に向けた取組みが望まれます。

令和3年度までリサイクル率が達成できなかった食の創造館については、令和4年度から、給食残渣のリサイクル契約を締結し、大幅な改善がなされました。

4 環境法令等の順守

全ての事務事業・事業活動を進める上で、関連のある環境法令等を特定し、一覧化するとともに、各課等における順守状況を定期的に監査することで、環境法令等の順守を徹底します。

〈環境法令等の順守に係るPDCAサイクル〉



(1) 内部環境監査

環境法令等を順守するための仕組みが整備され、実際に順守されているかを判定するため、内部環境監査を実施しています。監査結果については被監査部等に通知し、不適合事項があれば是正処置を求めます。

監査を行う内部環境監査委員は、勤続5年以上で環境法令等に関する専門知識や業務経験を有する職員の中から任命しています。

〈令和5年度の実施結果〉

監査実施日	令和5年5月29日～6月22日
監査対象期間	令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）
不適合事項	1件（教育部）
指摘事項	2件（まちづくり部及び教育部）

(2) 環境法令等定期監査

環境法令等を順守するための仕組みが整備され、実際に順守されているかを判定するため、各部等ごとに環境法令等定期監査を実施しています。監査結果については被監査部等に通知し、不適合事項があれば是正処置を求めます。

監査の実施者（監査員）には、ISO14001 審査員の資格保有者を業務委託により充てることで、ISO14001 の認証に依らない独自の環境マネジメントシステムでありながらも、その有効性を担保しています。

〈令和5年度の実施時期〉

部 等	実 施 日		不適合事項
市長室	令和5年	10月11日	なし
財務部	〃	6月29日	1件
市民協働部	〃	7月27日	1件
保健福祉部	〃	8月22日	なし
経済環境部	〃	7月10日	なし
まちづくり部	〃	9月28日	なし
消防本部	〃	9月28日	なし
教育部	〃	10月11日	1件
監査対象期間	前回監査実施日（令和4年度中）から 監査実施日前日（令和5年度中）まで		

5 職員への研修

EMSに対する理解を深め、職員1人ひとりが日常業務を行う上で環境配慮を意識した行動ができるよう、それぞれ必要な研修を実施しています。

〈令和5年度の研修実施状況〉

種類	対象者	日にち	受講人数
EMSに関する研修	新採用職員	令和5年4月6日	28名
	担当者	令和5年4月26日・4月27日	53名
	内部環境監査委員	令和5年4月26日・4月27日	31名
環境法令等に関する研修	担当者	令和5年4月26日・4月27日	53名
	内部環境監査委員	令和5年4月26日・4月27日	31名
内部環境監査委員研修	内部環境監査委員	令和5年4月26日・4月27日	31名

